

## 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成28年6月7日（火）

午後1時30分～3時30分

【会場】清水町地域交流センター 多目的ホール

### 1 出席者

- ・ 発言者 長泉町及び清水町において様々な分野で活躍中の方  
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 170人

### 2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	未来に繋ぐ柿田川公園の整備	1
2	農業を通じた明るく住みやすい地域づくり	4
3	生活の中で花に触れる機会の増加	11
4	静岡県内におけるホッケー認知度と競技力の向上	13
5	中高等学校における吹奏楽レベルの底上げ	18
6	安心して子育てができるまちづくり	21
傍聴者 1	柿田川の橋幅の拡張について	31

## 【川勝知事】

この広聴会というのは、私がしゃべるのではなくて、お聞きすると。お聞きする方々はそれぞれの地域のリーダーの方々ということでございまして、ただお聞きして聞き流すというのではございません。提言せられたことにつきまして実行できること、できないことなど、また持ち帰って相談すべきことなど、これをこの場で皆様方に申し上げまして、政策を実現する、あるいは皆様方のためになることをするというそういう会でございます。

今日本当に感じ入ったんですけれども、こういう美しいお花を飾っていただいたり、そして今柿田川のすぐそばのこの湧水の道ですばらしいお食事を皆様といただいたり、ここはもう天下の柿田川湧水の清水町、そしてまた 1.82 という合計特殊出生率ですね、日本の政府は 1.8 を目標にしていますけれども、それを抜いているわけですね。

その意味で本当にどこに出しても恥ずかしくないようなこの2つの町の方々のリーダーのお話を聞くということで、恐らくもう注文なんか何もないんじゃないかなど、これをほかのところに宣伝しなさいというお話になるんじゃないかとも思いますけれども、限られた時間でございますけれども、皆さん方のお話を聞きまして、そして皆様も一緒にお考えいただきまして、いい広聴会になりますようお願い申し上げます、冒頭の挨拶といたします。

## 【発言者1】

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介いただきました食品製造メーカーの発言者1と申します。本日は、知事広聴「平太さんと語ろう」というこの会に出席をさせていただきまして、誠にありがとうございます。関係者の方に御礼を申し上げます。ありがとうございます。

私ども食品製造メーカーが今一生懸命取り組んでいることをお話させていただきます。その前に、私ども食品製造メーカーの御紹介をさせていただきますけれども、私ども食品会社は昭和22年に私の祖父母、おじいさん、おばあさんが創業した会社でありまして、元々名古屋と岐阜の出身の2人だったんですけれども、戦時中に転職・転勤でこちらの方に引っ越してきました。この駿東郡清水町新宿というところに引っ越してまいりました。戦後も住み心地がよかったのか、そのまま居着いたということでもあります。

その当時ほどこの人もそうだったと思うんですけれども、たくさんの子供をどうやって養っていこうか、食わしていこうかといった中で、この清水町というところが江戸時代か

ら麴造りが盛んなところということで、現在も何軒か残って頑張っているんですけども、その麴を使ったお漬物、金山寺をつくったり、また静岡県伊豆の玄関口ということで、ワサビが手に入るということでワサビ漬けをつくったり、そういうものをつくったのが始まりであります。

現在はいろんなところに卸しているんですけども、当時からここら辺は富士山が近くにありまして、箱根山もあります、伊豆もございまして、本当に日本の観光地が一堂に集まったへそみたいなお店でありまして、そういう地の利を生かして、自分たちでつくった地場産品を売り歩いたということでもあります。ですから観光に育てていただいた会社であります。

現在はそういうことで量販店さん、スーパーさんにもいろいろ商品を提供してもらっていますけれども、納品させてもらっていますけれども、私どもの主力商品でありますおろしワサビですとか、ワサビふりかけ、ワサビドレッシングとか、そういうものは海外にも輸出をしておる食品製造メーカーでございます。

そんな私ども食品会社が今取り組んでいることは、柿田川公園、日本を代表する本当に観光地だと思うんですけども、そこに隣接します約2,000坪のかなり広いところを、今その柿田川を目指していらっしゃる観光のお客様、もしくは地域の皆様に喜んでいただけるような、もしくは憩いを感じていただけるような施設を今運営管理しております。飲食店ですとか物販の店を今展開しております。

そこは元々泉の館さんといういわゆるドライブイン等があったところでありまして、そのオーナーさんが体調を崩されて、その広い敷地を運営管理ができなくなったということで、2年ぐらい前、一緒にやってくれよというお話をいただいて、縁あって今そういう施設を運営しております。

そのリニューアルを約1年かけて行いまして、この間のゴールデンウィークですね、4月の後半に順次オープンしました。「泉の館」改め「柿田川湧水の道」という名称で今運営管理をさせていただいております。

私どもがまず最初にそのリニューアルに伴って行ったことが大型駐車場の整備、それから庭園の整備、またはおトイレの改修というそういうお客様をもてなすにはどうしたらいいかという部分から始めました。特におトイレは、以前は全然バリアフリーでもなく、ただあるという感じだったんですけども、これは清水町さんのお力添えでバリアフリー化をしていただき、誠にありがとうございます。

また今現在はその町営の駐車場がございまして、その町営の駐車場から柿田川の泉に向かう途中が、どうしても1号線に出ないといけなくなっているんですね、動線上。非常にお客様が興ざめしてしまうということもあるので、その駐車場から庭園を通過して、そのまま柿田川公園、湧水まで行ける道をつくろうじゃないかということで、今町と一緒に鋭意協議を重ねてやっている最中でありまして。こちらの方もバリアフリーでやっていこうじゃないかという話になっております。

あと取水場、水汲み場ですね、以前は2カ所しかなかったんですけども、それも今現在4カ所に増やしまして、お水を持って帰られる方は、非常に近隣のお客様、遠くからいらっしゃる方もいらっしゃるんですけども、一人で50リッター、100リッター持って帰られる方もいらっしゃって、すごく重い。お水って重いんですけども、それをなるべく駐車場の近くがいいじゃないかということで、町の駐車場の近くに新たに2カ所設置いたしまして、汲みやすく運びやすいというような整備も行いました。

いずれにしても、柿田川公園、柿田川という、あと町営の駐車場に挟まれた場所でもありますので、その動線上にある施設なものですから、どうしても町の方々、行政の方々といろいろ協議しながらやっていかないと進まない部分もありますので、これからは行政の方々といろいろな知恵を出しながら、今20万人から30万人、柿田川にいらっしゃっているということなんですけれども、もっともっと増やして、うちの祖父母じゃないですけども、柿田川はいいところじゃないか、気がついていたら住んでいたというようなふうになれるような、柿田川公園を通じて清水町のよさをPRしていきたいと考えております。

嫌らしい話ですけども、そういういろいろな整備をするにはかなりのお金を投資したわけですけども、そういう投資はやはりお客様に来ていただきたい、たくさんのお客様に見ていただき、近隣の人に来ていただきたいということでやりましたけれども、その一方で柿田川、柿田川公園を自然保護とか環境保護という観点から、みどりの会のトラストさん、柿田川保全の会さんともいろいろな意見交換をしながら、お話をしながら、これからリニューアル、また開発をしていくにしても、バランスよくやっていきたいと考えております。

21世紀に残したい自然ということで、こういう冠もあるところでありますので、21世紀といわず、子々孫々、永遠に美しい柿田川が残るように一緒に考えていきたいと考えております。

以上が今清水町で取り組んでいることなんですけれども、もう1点、ごめんなさい、時間がないんですけれども、長泉町さんとも今取り組んでいることがありまして、私ども食品製造メーカーなんですけれども、一方で農業生産法人もやっております、去年から長泉町さんも柿田川に負けず劣らず美しい桃沢川というのがあります、この透明度がものすごくよくて、そこで国有林がありまして、そこでワサビをつくっていらっしゃる方があって、その方が、半分放棄地みたいなところがあったんですけれども、そこを長泉町さんがお買いになって、運営管理を私どもがやれということでやらせてもらっています。伊豆、静岡、御殿場と、非常にいいワサビをつくって、ブランド化されている中で、ぜひ長泉町さんとお互い手を携えて、いいワサビをつくってブランド化できればなと考えております。これも来年の今ごろには収穫できる予定であります。

#### 【発言者2】

私は新東名の長泉沼津インターチェンジからほんの数分に位置する長泉町元長窪で、主に家族4人、四ツ溝柿、アーティチョーク、ブルーベリーなどを栽培しています。10年ほど前に就農して、農業を頑張りながらこの6年は6歳と3歳のやんちゃな息子たちの子育てと、大好きな祖母の介護を同時進行で家族6人で奮闘してきました。昨年9月に残念ながら97歳で祖母が亡くなるまで、4世代7人、笑いあり、涙ありで過ごしてきました。

さて、元長窪は農業振興地域です。今の時期は田んぼに足の生えたオタマジャクシがうじゃうじゃと泳ぎ回り、夏には山で子供とクワガタ取りができる緑豊かな地域です。先ほど発言者1さんのお話にも出ました桃沢川に隣接しますバーベキュー場は、憩いの場として市街地からも多くの方が訪れます。今現在、地域全体でその地域や自然を管理していますが、高齢化や後継者不足、鳥獣の被害で、荒廃した土地も出てきました。私は農家ですので、農業を通じてこの緑を守りながら、明るく住みやすい地域にしたい、そのためにはどうしたらいいでしょうか。

多くの人に元長窪を訪れてもらい、リピーターとして何度も来たくなる場所にすることが大事だと思います。人の輪によって里山が守られ、経済効果が生まれたり、地域の活性につながるかもしれません。では、何を目的に元長窪を訪れてもらうのか。

1つに、四ツ溝柿の多い地域ですので、四ツ溝柿や生産者に会いに来てもらったらどうかと思っています。今日はそのための一歩として四ツ溝柿の認知度を上げるための取り組みについてと、あと要望もオーケーとのことですので、最後に少し私のお願いも織り交ぜ

ながらお話しさせていただきます。

我が家では20年ほど前に姉がホームページ立ち上げ、新聞広告掲載、お便りやブログでの情報発信、そのほかにもたくさんの人に柿園を訪れてもらいPRに努めてきました。ありがたいことに、毎年日本各地からたくさんの注文をいただいています。しかし、最盛期の市場に足を運びますと、どの市場も商品のだぶつきが目立ちます。生産者が手をかけて育てた柿を生かすべく、六次産業化で何とかしたいと毎年思うところです。

2年前にはやっと見つけた県外の加工施設に主人と私のイメージを伝えて、サンプルをつくっていただきました。知人に配り、アンケートに協力していただきましたが、小さな農家で加工品のノウハウもありませんので、なかなか商品化にはまだ至っておりません。でも、まだまだ頑張っって勉強に励みたいと思っています。

ところで、皆さんは四ツ溝柿を御存じでしょうか。御存じの方、いらっしゃいましたら手を挙げていただけますか。ありがとうございます。本当はもっと少ないかなと思ったんですけれども、長泉町と清水町の方が多いのか、ちょっとほっとしています。

四ツ溝柿は愛鷹牛、白ネギ、大和芋、メロンとクレマチスとともに、長泉町の特産品とされている歯触りのよいおいしい柿です。30名ほどからなる長泉の四ツ溝柿部会では、JAはじめ、たくさんの方に御協力いただき、50年ほど前から技術と品質の向上に努めて栽培してきました。

では、こちらについては皆さん、御存じでしょうか。平成23年からは県のしずおか食セレクションにも認定されているんです。ところが頑張っってはいるんですけれども、四ツ溝柿の認知度がやっぱりいまいちなんです。それに若者の間で、柿って何でかわからないですけど、柿ってだけで敬遠されてしまうんですね。年配の方は、昔懐かしいふるさとの柿なんですけど、若い方々にもぜひこの柿を知ってもらいたい、その思いもあり、長年柿園への人の受け入れに積極的に取り組んできました。

一般の方に畑に入って、しかも作業してもらうのには、農家はとっても勇気が要ることです。というのも、毎年同じ作業をしているようで、天候により、長年の勘を働かせ、調整することもありますし、受け入れ側の体力も必要になってくるからです。それでも小学生の社会科見学、中学生の職業体験、JAボランティアは毎年1カ月、延べ40名ぐらい、主人が所属するバスケットボールチームの親子連れに、去年はオーストラリアから2組、そのほかにも国内外問わずたくさんの人に柿園に足を運んでいただいています。

そして子育て中のママの眠っている力も発揮してもらいたいと思い、ママ4人にもアル

バイトで数年前から作業を手伝ってもらっています。先日は長泉観光交流協会が主催する四ツ溝柿PRのための柿ママサポーターの第1回目の受け入れがありまして、応募してくれたママたちが柿のつぼみを間引く摘蕾作業をしに柿園に来てくれました。皆さん素人ですけれども、うちでは最初からママたちに剪定のハサミを持ってもらいます。

柿の木って、父や主人が何年か先にどこまで枝が伸びるかということを考えながら冬に剪定するんですけれども、それを考えるとなかなか初めから素人が枝を切れませんよね。でも、もちろんこちらの生活がかかっていますのでしっかり説明はしますけれども、作業をしていくうちに、皆さん手際よく、丁寧に仕事をしてくれて、とつてもにぎやかに過ごしました。ママたちは次回の作業に来るのも楽しみだと言ってくれています。

この6年は子育て、介護で手一杯でしたけれども、今年は次男が年少さんになり、次のステップについて考える余裕が生まれてきました。私たち夫婦にとっては、ここが新たなスタートラインだと思っています。柿園に来てくれている人たちと地域の人と自然とが結びつければ、新しい可能性が必ず生まれるはずだと思っています。

そして、そのことが住民皆でこの地域を盛り上げていくパワーの1つの源になってほしいと願っています。今までもいろいろな方がそれぞれ頑張ってくれました。しかし農業振興地域の制約に縛られて、なかなか先に進むことができません。

そこで、私の小さなお願いです。交流の場となるような施設やトイレなどの施設の許可がいただけないかということなんですけれども、これは点在する数々の直売所を集約して、安全に買い物することにも、そういうのが道路沿いにありますので、安全に買い物することにもつながりますし、訪れた人と地域との交流にもつながるのではないかと思います。

あと1点、道路の整備ですけれども、高齢者でも、女性でも、だれでも安全に機械が使えれば、農地や緑を管理できる人の幅が広がってくるのではないかと思います。農業機械を使った事故というのは全国的にとっても多くて、危険な地域もありますので、道路がもう少し整備できればなと願っています。

もう1つは、体験や六次産業化に向けての施設建設の許可です。農業振興地域ならではの豊富な農産物がそろっていますし、住民の方々は、どなたもいろいろな技術を持っています。それを生かして新たな商品が生み出せばいいかなと思っています。

新東名、東名、縦貫道の入り口からわずか数分、ファルマバレーや工業団地からは目と鼻の先の好立地条件です。皆で盛り上げ、明るい元長窪になっていけば、卒業や退職を期にUターンを考える人も出てくるのではないのでしょうか。介護を通じ、祖母は私にたくさ

んのことを教えてくれました。高齢者は私たちに人生のいろいろなことを教えてくれます。

そして子供たちは高齢者に生きる力を与えてくれます。子供から高齢者まで夢を持って生活ができる地域になるよう、ぜひサポートをよろしくお願いいたします。そのことが住民皆で次世代まで素晴らしい緑を守りながら地域を発展させていくパワーにつながると信じています。ありがとうございました。

### 【川勝知事】

それぞれ清水町と長泉町から男女共同参画でいいお話をいただきましてありがとうございました。発言者1さんの方、泉の館が今度湧水の道として蘇って、今日は泉の館といますか、特殊東海製紙の原点であったと。福井というのは和紙で有名ですけども、いい水を求めて、こちらでいい水を発見せられて、それがやがて特殊東海製紙になった。その社長さんの家と工場があったところが今湧水の道になっているところだということのようでございます。

今日その泉の館の一番立派な家がリニューアルされて、先週土曜日にオープンしたそうです。そこで一番いいのが豆腐を食べることです。午前11時から午後2時まで、夕方はやっておりません。素晴らしいお庭と素晴らしい建築の中で豆腐をいただく喜びを今日は町長先生方とともに感じ入ったわけですけども、その中で発言者1さんがトイレのことを言われました。バリアフリーにすると。

先ほどまた発言者2さんの方からも言われましたけれども、たかがトイレ、しかしさほどトイレで、とても大切なことです。これは1回きりしか来られない方もいらっしゃいますし、しょっちゅう来ていらっしゃる方もいらっしゃいますが、関係なく必要とされる施設であります。

そこにバリアフリーというふうにお考えになって、清潔なトイレをおつくりになったというのは、さすがです。このワサビというのは綺麗な水がないとつくれません。御殿場にしても伊豆にしてもそうでございますが、ここでも綺麗な水があるということで、実は温度がとても大切なことも先ほど習ったんですが、それがちょうどいいのが長泉にあるということで、清水町の食品製造メーカーさんですけども、長泉に来年ワサビ田が誕生して、それが商品になるということなわけで、つまり美しいということを前提にしていろいろ商売されていていらっしゃるの、やはりそういう不浄なものを綺麗に使っていただくという考

え、そしてまただれにでも使っていただけるということで、身障者に対しても優しくするというこれが私はこの住民の方々の哲学になっているんじゃないかと思います。

それからこの泉の館と言っていましたが、これは1、2年ほど前にたまたま新聞に泉頭城、泉に頭とお城と書きまして泉頭城について載っていたことがあります。これは、徳川家康は74歳で亡くなるんですけれども、亡くなる前に、彼はすぐに将軍になって2年後には秀忠さんに将軍職を譲って駿府に隠居されるわけでございますけれども、自分が最後に住みたいのは泉頭城だと。彼は二条城をつくっているんですね。つまりいわゆる最近で言う別荘です。そういう別荘として二条城をつくった。しかしあそこは京都の古いところがあります。

彼は富士山が大好きであったと。それで周りにすばらしい、いわば天然の要害のような水が流れていて、そして富士を眺めることができ、そして綺麗な水がありますから、ここそ自分の理想とするところだということで、泉頭城の設計図まで描いて、しかしながら残念ながら、もうちょっと長生きされていればつくられたかもしれませんけれども、できなかった。それを今、発言者1さんがなさっておられるわけですよ。

ただし、これは徳川家康という特定の個人のためではなくて、皆さんのためにやっているということで、これはそういうお考えが、柿田川にも国道1号線を渡らないで行けるよというお考えで、庭を通って行けるようにすると。これはみんなで支えなくちゃいけないというふうに思いますね。そのためにはまずは豆腐を食べて考えるということが大事じゃないかというふうに思いました、今日は豆腐をいただいて、素晴らしいと思いました。それとワサビを上に乗っけて、カツオ節でもいいし、ショウガでもいいですけども、何でも合うのが食品製造メーカーさんの豆腐であります。ということでどうぞよろしくお願い致します。

それから発言者2さん、6つと3つのお坊ちゃんがいらして、そして97歳でおばあさんが亡くなられたということですが、私はその大往生せられたおばあちゃまも幸せだったと思います、6つと3つとお坊ちゃまが、大おばあちゃんというのかしら、の愛情をフルに受けて育っているの、最高にいい愛情深い子に育っていくに違いないと思います。

私は今、東京の子はお父さん、お母さんと自分の子供たちとしか住めません。平均の延べ床面積が80平米ですから、4世代ではとてもじゃないけど住めません。3世帯でも難しいですね。しかしながら、この清水町や長泉ですとそれができるとということで、私はおじいちゃんやおばあちゃんが孫に寄せるものは何かというと愛情だけです。その愛情という

のは測れませんけれども、愛情量というのはあるのじゃないでしょうか。

ですからお父さん、お母さんがなくて厳しい環境で育つ子が何に飢えているかという、愛情に飢えている。これは接していればすぐにわかりますが、そうしたものをふんだんに身体じゅうに浴びて持っているというふうにすることがとても大切で、その意味で立派に介護もされたみたいで、御立派なことだというふうに思った次第であります。

さて、四ツ溝柿ですけれども、そのおいしさも含めて、7年前までは知りませんでした。今は皆様と同様、四ツ溝柿を知っています。ただし、これは収穫時期が決まっていますね、それがありませんね。だからブルーベリーや、それからチョウセンアザミなどもおつくりになっているということなんです。静岡県には農産物が339あるんですよ。1つの農産物もさまざまな品種がございまして、その中で最高級のもを「しずおか食セレクション」として選んでいるんです。これはいわゆる本当のブランドなんです。勝手に選ぶんじゃなくて、都会の大先生方にしっかり審査していただいて選んでいただいている、それがうちの条件なんです。ですからこの品質においてはどこに出しても恥ずかしくないものです。農業芸術品、農芸品です。

ただ、これをどうするか。食べて終わりということじゃなくて、それで「ふじのくに新商品セレクション」、つまり加工食品にして、そうすると長く持ちますから、そのために「ふじのくに新商品セレクション」というのもこれは大切だと。これからは食、つまりもとの素材の農産物と、それをいろんなものと加工して、今日も豆腐のアイスクリームというのをいただいたんですけれども、これも信じられないような淡泊なおいしい味です。

こういう新しい組み合わせというものが、今四ツ溝柿に求められていて、これを今模索中だということで、実は県を挙げてこれやっているんですね。ですから皆さんのいろんなお知恵、それから味覚ですね、これを生かして、四ツ溝はこれに合うというふうにすると、大化けする可能性もあるでしょう。

そして、またそこに小学生や、あるいは中学生をお招きして、いってみれば身体で覚える教育ですね。これは学校で机の上で勉強するというのじゃなくて、とても大切で、一生忘れられないものになるので、こういう教育をしていただいていることもありがたいと思います。

そこでトイレがないとおっしゃる。これは非常に問題で、これは長泉の町長さんと県と、あるいは関係者で、そういうものがそこに必要であるということであれば、ちゃんと下水処理を踏まえた上で、今は恐らく合併処理でやればいいんじゃないかと思いますが、つま

り汚水を汚いままに川や海に流さない。それを処理する方法として合併処理浄化槽という方法は日本人が30年ほど前に発明しまして、これは中山間地域などでは取り入れるべきものであります。

そのデザインをどうするか。これを東京のデザイナーに聞くと高くてもしょうがないですね。100万円とか200万円とか、場合によっては1,000万円取られますから、そのときに誰に聞けばいいか。これは静岡文化芸術大学というのがあるんですよ。浜松ですけれども、私がいたときには倍率11倍でした。女性が8割ぐらい占めています。つまり才媛なんですね。そこに頼めばいいですよ。

そして、こここのところの景観、富士山が見える。そして交通が便利だと。秋になるとたわわに四ツ溝柿が実る。こうしたところにどういうトイレがあつたらいいでしょうか。そうすると彼女たち、あるいは彼らは考えますよ。それをベースにしてつくっていただければいい。そしてそれはどういうふうに褒美をするか。それは優秀デザイン賞、長泉町長遠藤日出夫と掲げる。副賞として四ツ溝柿も。そうするとほとんどお金要らないですよ。

そして若い人たちも来ますから、ですから二重三重で、実はこれは清水区の新丹谷というところでやまして、1,000万ぐらいかけてやるかといって、そんなことはない。若い青年がやってきて、それで新丹谷、トイレをつくると言っていたのが、今文化会館といっていますよ、あんまり立派なもののできたので。

ちなみに新東名でSA、PAで寄られることがあると思いますが、そこは東名のSA、PAと全然違いますでしょう。御婦人の洗面所がむちゃくちゃ綺麗なはず。日本一になったのが新清水のSAのトイレですよ。つまりこれからの時代は国籍を超えて必要なものですから、人間として、そういうものを作っていくことが、実は人を引き付けることになるんですね。

新東名のトイレは、あれを作られた民間から来られた会社の社長が、帝国ホテルのトイレよりも女性トイレは綺麗にすると、そう決められたんですよ。だから私はもう長泉、今ファルマバレーも来てやっているところであります。元長窪もそういうすばらしいところですから、こういうところは協力した方がいいと思いますね。そういうふうに思った次第でございます。それとあわせて交流の場みたいなものも一緒に併設すればいいのではないかと。

あと、道路云々のことについては、はい分かりましたというふうには言えない面がありますので、ちょっと現場を見てそれからということになると思いますけれども、おっしゃっ

ていることの中身は現場での現実を踏まえての御提言ですので、できる限りしたい。共通しているところは何と一番不浄なものを綺麗にして、気持ちよく使っていただこうと。そのことが教育効果も上げるし、またその地域の魅力度も上げていくことになるんだということではなかったかと思うんですね。いいお話をいただきました。ありがとうございました。

### 【発言者3】

こんにちは。本日はこのような機会をいただきましてありがとうございました。私は長泉町でクレマチスを生産しております発言者3と申します。先ほど四ツ溝柿で皆さんにお伺いさせていただいたんですが、もしよろしければクレマチスを御存じの方、お手を挙げていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

すみません、ちょっと長泉町の者は少し控えめなのか、分からないんですけども、なかなかどれだけの方が知っていただいているか不安に思っていて、先日長泉町の『マラッチ』の方に取材を受けて、タウン情報誌の方に載せさせていただいたんですが、そこで私の夢というか、そういったところでクレマチスを知っている花で20位以内で入ってもらえるようにしたいという思いがありました。今回多くの方にクレマチスのことを知っていただいている、とてもほっとしております。

私どもが普段今行っていることの説明をさせていただきます。40年ほど前に私の父がクレマチスという花を始めまして、元々代々農家の家だったんですが、父の代から花を育てて販売するようになりました。長泉町がクレマチスの生産日本の大半を占めています。というのは、父がクレマチスの生産の方法を新しく技術を取り入れて、今まで接ぎ木という方法で増やしていたのを挿し木という方法を使って増やせるようになって、それで大量に生産できるようになって、皆様の元にお届けできるようになりました。

今生産している量が年間で50万ポットぐらいなんですね。そこから全国に販売を、出荷をしております。ただ、ですがそれだけ作っているんですけども、なかなか静岡県内や静岡県の東部の出荷というのは、そこまで他県に向けたものと比べて多くなくて、何とかもっと地元で楽しんでもらえる方を増やしていきたいなと日ごろ思っています。

今花を通じた活動の中で、15年ほど前から町の中学校の入学式にクレマチス、もしくはクリスマスローズもありますが、配っております。その活動も、両親が命の大切さと生き物と触れ合うことの楽しさを伝えたいという思いの中で始めたことなんですが、13年ぐら

いになりますが続いています。

私も学生が終わって5年間サラリーマンをして、5年前に就農したんですが、実家に戻ってきた当初は、よく続けていられるなと思っていました。ただ、ここに帰ってきてからいろんな方のお話を聞く中で、すごいうれしかったことがありました。3年前に入学式でいただいた花が、ことしの卒業式、娘が卒業するタイミングにあわせて花が開きましたというお手紙を保護者の方からいただいたり、あとは郵便局の配達員の方が、以前いただいたのを楽しく育ててますといったお声をいただいて、とてもうれしくなりました。

花というのは、すごい生き物との関わりの楽しさが凝縮しているものだなと思います。種を手に入れたら、すぐ芽を出してくれますし、春になったら花を咲かせる。クレマチスだったら、1回目の花が終わった後に手入れをしてあげること、夏にも秋にも咲いてくれる。日々の元気の源になると思うんですね。自分が行ったことで、植物がすぐこたえてくれますし、愛情を持って育てると、それにこたえてくれるので、花を使って、今中学校の生徒にプレゼントしていますけれども、そういった生き物との関わりを大切にすることをこれからも私もやっていきたいと思いますし、もっと子供たちと関わっていく。今「花育」と言われているように、花を通じて生き物の大切さを知っていただくような活動をもっとやっていきたいなと思っています。

そういった活動を行っていく中で、今長泉町役場の有志の方が、定期的に年に3回、4回農場の方でクレマチスのことについて相談会というか、クレマチスの育て方をお伝えすることをしています。そういったことを行って、もう2年目に入るんですけども、すごい長泉町役場のクレマチスが綺麗に咲いていて、うちで春、農場だと出荷の方に手を取られてしまって、なかなか手入れがいなくなってしまううちの庭のクレマチスより綺麗なものを咲かせてくれていて、すごい驚いているんですけども、そういった活動をもっとやっていきたいなと思います。

なかなか、少しお願い事になってしまうんですが、最近少し花に触れる場所が減っているように感じます。園芸店さんの数も、何か以前より少なくなったなと思いますし、そういった中で先ほどの長泉町役場さんの方々ではないですけども、普段から触れる機会があると、より関心を持ってもらったり、楽しくなってくると思うので、もっといろんなところに県の特産である花、切り花とかであるとバラとか菊とかありますけれども、そういったものに触れる機会と場所を増やしていただけたらなと思います。以上になります。ありがとうございます。

#### 【発言者4】

こんにちは。清水町ホッケー協会の発言者4といいます。本日このような会を設けていただいたんですけれども、私自身、こんな大勢の前で話すのはとても苦手です。普段は子供たちの指導をしていますので、総合運動公園、そこでホッケーを教えております。

現在の取り組みですけれども、清水町開催で行っていますホッケー教室、ここはホッケーの導入として行われています。月に第1、第3、第5、幼稚園から大人まで、最高で60歳前後の方が100人前後いらっしゃいます。そして清水町ホッケークラブ、SHCと略させていただきます。SHCの方で小中学生の指導と、あと県内で唯一清水中学校にしかホッケー部はございません。そこの外部コーチをしています。

あとちょうど清水町、長泉町の方たちということで、長泉町にはスポーツ少年団がありまして、小中学生やっております。そこのコーチと常に交流を持っていて、現在月に2回、合同練習を行っています。最近ではその清水町で行われているホッケー教室にも、長泉町からも来ていただき、底上げとして練習をしております。

そしてあとは県のホッケー協会の強化部として、国体、少年の部と成年の部とあるんですけれども、私自身も結構な年なんですけれども、まだ一応成年女子で何とかホッケーをしております。そしてその中で、もちろん選手だけではなく、現在は指導が中心ですので、高校生の方ですね、選抜チームの選考、もちろん練習などのコーチを担当しています。

最近ですけれども、去年からみしまジュニアスポーツアカデミーという企画がありまして、そちらが三島でオリンピック選手を育てよう、オリンピック選手を輩出しようという企画がありまして、そこに何とホッケーを選んでいただきました。

他にはホッケー以外にボート、陸上、自転車、レスリング、その中に何とマイナーのホッケーを入れていただき、今月からその三島のA判定、スポーツテストの1級ですか、能力の高い子たちを選出しまして、その人たちが学校の部活と並行してホッケーの活動にも来てもらっています。ホッケーが2つ目の競技になりまして、前回は陸上、全部その子たちはいろんな5つの競技をやっていくんですけれども、もう3回ホッケーをやっておりますが、やはり運動能力が元々高い選手というのは、教えていても、3回しかやっていないんですけれども、思った以上に発揮してくれています。

そしてあともう1つ、ここ最近5月に行われたんですけれども、日本トップリーグ機構という企画がありまして、そこのボールゲームフェスタというのがあるんですけれども、

御殿場で行われました。これが全国各地で行われているんですけれども、そこもバレーボール、バスケットボール、ラグビー、それに並び何とホッケー。

それでそういうトップ選手、バスケットボールでも、ラグビーでも、テレビに出るような有名選手に、なぜ私がいるんだろう、ここでいいのかという感じでホッケーの楽しさを伝えてきました。

そんな感じで、私の目標はホッケーを多くの人に知ってもらいたい。さらにトップ選手を育てるのが一番の夢なんですけれども、今の現在のSHCという活動なんですけれども、静岡県で国体があったときに、清水町と長泉がホッケー会場になりました。そのまま清水町ホッケー協会、ほかのコーチ陣の方、そして清水中卒業生、今日も来てくれているんですけれども、卒業生が一生懸命私たちのサポートをしてくれまして、子どもたちの育成をしております。

そういうことで活動はそんな感じです。そして今後清水町ホッケー、静岡県のホッケーをどう発展したらいいのかと日ごろから考えておりまして、正直、東海地区だと岐阜県、ここには実業団チーム女子があります。男子は愛知県、とても強いです。日本一になる。もちろんオリンピック選手がそこに入ります。その中で東海で勝とうというのは非常に難しいです。でもやはり私の目標としては、清水町、静岡県からホッケーのオリンピック選手を育てたいというのをずっと思いながら指導しています。

そのために今、清水町ホッケークラブからホッケーのある大学へ進学している子たちもかなり増えています。その子たちが卒業後、夏休みなどに帰ってきます。そのときにやっぱり地元に戻ってきたいけれども、仕事とホッケーの両立、そこが難しい。強いチームはやはり実業団のある、仕事とホッケーと両立してできる環境がある。正直私自身も大学に進みまして、その後、静岡県から私自身強いチーム、静岡県、正直余り強くないです、まだ。

私の高校時代も何十年前なんですけれども、勝てませんでした。ということで大学でトップチームに行きたい、そういう思いで大学に行きましたが、その後、静岡県に帰ってきてもチームがないんです。結局私も地元で奈良県の選抜チーム、実業団でやるつもりだったんですけれども、県の国体選手としてやっていました。今の子たちもやはり同じような意見を聞きます。

そのときに今すぐどうにかできないですけれども、ここでお願いしたいのが、やはりそういう環境ですね。実業団チーム、ホッケーと、なかなか厳しい時代だとは思いますが

れども、仕事をしながらホッケーと両立できる環境、そして現在総合運動公園と長泉の竹原運動公園でホッケーをやっていますが、専用グラウンドではありません。なので、いつでもホッケーをできる環境ではないので、県立のホッケー場、いつでもホッケーができる環境、そういうのを整えてもらえたらありがたいなど。

どういうふうに伝えようかいろいろ考えながら、皆さんの話を聞きながら考えていました。こんな要望大丈夫なのかなって正直思いましたが、もうストレートに自分の思いを伝えようと思ひまして、最終的にグラウンドをつくってほしい。以上です。ありがとうございました。

#### 【川勝知事】

どうもありがとうございました。長泉と言えば四ツ溝柿、しかしクレマチスという、それに勝るとも劣らずというか、もうほとんど代名詞みたいになっているんじゃないかと思ひますので、これは全国のシェアの大半ですよ。ですからクレマチスの丘、美術館、彫刻がございまして、そしてまた素晴らしい庭もございまして、そこはクレマチスという名前と一体になっているということで、町役場がクレマチスのツル、美しいお花を季節に咲かせると、そういうことで協力されているのは、誠に御同慶の至りです。

5年前に帰ってこられたんですか。もうお父上立派ですよ。同時によく帰ってこられました。うれしいですよ。あなたのような、まだ30そこそこでしょう。最高です。さすが長泉。

そういうわけで、例えばそうですね、花のイメージで言うと、もし旅された方でスペインなんかに行かれると。そうすると南の方に行くとかブーゲンビリアの垣根がざあっとそれで、それがイメージになりますよね。白い壁、そして橙色の屋根とか。クレマチスの丘、長泉はクレマチスで垣根が覆われていると、学校やなんかですね。これがまずできるようになっているでしょう、今。そこまできていると思うんですよ。

それができてないというなら、これはもう町の人と一緒に協力する必要がありますね。まずは清水町が協力するのが一番いいじゃないかと思うんですけども、それで、実は花の生産額は全国で4位なんです、静岡県。ところが消費額が40位なんです。要するに買わないというか、これは野の花ではありませんが、野の花を楽しむという、実は商品になっている花の数だけで704あります。クレマチスも品種改良されておられますし、例えばマーガレットでも数十種類の、あるいは母の日のカーネーションなんかでも300品種以上、

400 品種ぐらいあります。そのように品種改良、品種改良して、いわば花の都なんですね。それを使わないというのが非常にまずい。

まずはやはり町役場だとか、県庁でもそうです。あなたのお部屋に花はありますか。ですから皆さんが花を使うということで、例えばちょっとお金がかかるかもしれませんが、ハンギングバスケットを目抜き通りにするとか、プランターを置くとか、そういうことなどをしてお花のまちというふうな形で周りにお花があふれている。それから何かあったときに、ちょっと一輪の花でもいいから、お母さんとか、あるいはお姉ちゃんとか、病院にいる人にとっては、花を持っていくことが普通になっていますけれども、人の心に慰みを与える、希望も与えるということですから、そういうまちにしたいものですね。東部はそれが似合うと思います。

富士山には月見草が似合うといいますけれども、富士山には全部似合うでしょう。サクラも似合うし、ツツジも似合うし、菜の花も似合うし、すべての花が似合うんだと思うんですよ。なぜかという、水は太陽の光を浴びると、それが植物をつくって花、そして実のあるものをつくるわけですから、ですから要するに日の本の国である日本と、雪は水ですから、これはもう合わさると花にあふれるわけですね。ですから最もそれが僕は似合うと思います。

ですから先ほど、クレマチスせっかくこんなにつくっているのに、どうも使ってくれないというふうな若い 30 代の青年が悩んでいるというのは、これは我々は少し正面から受け止めて、もっと花を使うという、それから花というのは人生ですね。あるいは人間の生き方でもあると思います。

よく、ちょっと長くなって恐縮ですけども、人生をどう区分するかということで、仏教の方たちは子供の時は学生期(ガクショウキ)、学生ですね、それから家に住む家住期(カジュウキ)、それからだんだんと子供が元気になって自然とともに楽しむような林住期(リンジュウキ)、最後は遁世期、遁世するというか、そういうふうな人生区分します。中国の方たちは、「十五にして学に志し、三十立ち、四十惑わず、五十天命を知る、六十耳に従い、七十心の欲するところに従って矩をこえず」、こういう堅苦しいことやるわけです。

ところが日本の人生区分というのは、『花伝書』って聞かれたことありますか、世阿弥の。あそこに若いときは花がある、綺麗だと。だけどだんだんしぼむと思うのは間違いだと。ちゃんと精進していると誠の花を咲かすことが人生においてできるということを述べています。そしてちょうど梅の花ですね。若い梅の花はたくさん花をつけると。しかし老木の

梅が花をつけているその味わいはもうなかなかのものだと。ですから花のごとく、自分の中に花を持てと、花として人生を論じているんですね。

ですから僕は先ほど発言者3さんが花と命、こうしたことを結びつけて、ここから学ぶものがたくさんあるとおっしゃったのが、本当にそのとおりだと思うんですよ。ですからそういう意味でも、花を生活の中で使い、また花を栽培するというそういう文化を、水が豊かであるところ、きれいな水が豊かなそういうところで長泉、清水町でぜひやっていただきたい。差し当たってたくさんの方がございますので、ここはまずクレマチスからということで、どこかまず1点を突破して、そこから全面的に展開していくということができるとは思いません。

次は発言者4さん、実にはっきりと県立のホッケー場をつくれますか。とりあえず、国体でこちらで長泉と清水のそれぞれで大会が開かれたと。それがきっかけで発言者4さんが、よしここでということで、しかし、なかなか環境が整ってなくて岐阜に負けていると。岐阜に負けているのは残念じゃないですか。岐阜は女性が強いとおっしゃいました。愛知は人口も多いし、いろんな強さがあるかと思いますが、まずは発言者4さんがいらっしゃるの、女性チームがあるということで、できませんかね。

ともかく、これ一緒にやらなくちゃいけないので、こちらにも総合運動場があり、また竹原にもあるということなので、そうしたものをどういうふうにするか、もっとホッケー文化を活性化できるか。清水中学がそういう伝統を引き継いでいるということなので、そういう方たちの意見も聞いて、どこの場所にどういうものを造るのが一番いいかということがあるかと思えます。

これはただに清水町や、あるいは長泉町の方たちだけでなく、県全体で使ってもらいやすいようなところを探さなくちゃいけないんじゃないかと思えますので、今我々はスポーツ王国を復活させようということで、オリンピックも来るし、県始まって以来ですね、オリンピックのゲームの1つが来ると。それからワールドカップも来るということで、スポーツをもう一度見直そうと。それが健康にいいということもわかっているわけですね。

60歳で激しい動きをするというのはすごいいと思います、食べ物もいい、それからスポーツを継続してやる。それからこういうふうに広聴会に必ず出てくると。これが社会参加なんですね。社会参加と、それからスポーツと、それからたくさんの方の食材をバランスよくいただく、この3つをやると、健康寿命が延びるんですよ。それが今日本一でしょう。世界一ということですよ。

世界一が日本で、日本の中で一番健康寿命が長いのが静岡県ですから、そういう意味で世界一なんですけれども、そういうのに激しい運動ができる人とできない人がいると思いますが、そのファンは増えた方がいいというふうに思いますので、そのホッケーのメッカが西の方にあると、岐阜と愛知でまずは岐阜から落としましょうか。

ちょっと1回見に行って、どういうホッケー場を持っていらっしゃるのか、そのあたりをちょっと勉強していきまして、まずせつかくこういう素晴らしい元U-16の監督を務められたということで、是非こういう人材を活用するためにも検討を始めましょう。それでよろしいですか。以上でございます。

#### 【発言者5】

皆さん、こんにちは。私、清水町立南中学校評議員と、学校地域支援コーディネーターの発言者5と申します。この中で学校地域支援コーディネーターという役職を御存じの方はいらっしゃいますでしょうか。

まだ清水町は平成26年から始めまして、2年目、実質3年に移るんですけれども、活動してから2年半ぐらいしかたっていません。その中で自分たちに何ができるかと。小中学校合わせて5人のコーディネーターがいるんですけれども、自分たちがコーディネーターしながら何をしたいかわからないということの中から、自分たちができるところで始めようということで開始いたしました。

私、自分の中で好きなのは吹奏楽をやっていますので、楽器を吹くことが大好きで、通常も頭の中は音符が飛び交っていることがすごく多くて、普通にふらふらしていると何か別なことを考えているなということが多いうぐらい、真面目に考えてないようなことなんですけれども、音楽のことに関すると非常に真面目に考えております。一応中学校の方の役員としては学校評議員として13年目に入ります。

何をするわけでもないんですけれども、学校の運営に協力するということが13年たちました。その中でコーディネーターということの事例が発生して、そこから私もこの役を仰せつかったんですけれども、自分の中では本当に情けない話なんですけれども、清水南中学校は6年ぐらい前は部員が6人、7人、一番最大で多いときで10人ぐらいの音楽部にもならないような人数で活動していました。

先に結果だけ言わせてもらえば、一応去年のコンクールで人並みに東部大会で金賞を取って、県に出場を果たすことができました。

実際、僕がこのコーディネーターの前に5年前から吹奏楽部に対する支援は始めております。一番最初に始めたのは、清水町ではなくて長泉町から依頼されて、長泉北中の校長から吹奏楽部を強くしてほしいという依頼がありまして、自分が持っている組織のメンバーを利用して、一番最初に3年前にここは東海大会まで進むことができました。

それと同時に長泉中学校も盛り立てていこうというふうなことで、自分の中ではそういう実績を積みながら清水町にこういうコーディネーターの仕事が来ましたので、自分の中ではもうデータをちゃんと取ってありますので、こうすればこういうふうになるということは分かっておりましたので、去年、南中学校が東部大会で金賞を取れたということはブロックではないと思っております。

現実的に今年は南中学校を、単なる目標ですけれども、東海大会まで持っていくと思っております。持っていく自信もあります。そのように育ててきましたけれども、結果は、評価するのは審査員なので、その方々が審査する内容によって変わりますよ。自分の中では東海大会まで持っていきたいと思います。

ずっと5年間、南中ばかりでなく、長泉町も清水町も一緒にやるので、この4校が、さっきから言っています南中ばかりではございませんでした。駿東地区の4校の中学校すべてで金賞を取って県大会まで行っております。それはなぜそういうふうなことになったかという、自分の友達とか、自分の仲間たちが全部講師としてその中学校に配置しております。

その中心は、ここの清水町にあります県立の沼津商業高校の吹奏楽部というのが元になっております。それは県立の学校でありますので、高校としては実際地域としては離れているんですけれども、清水町に協力してくれるという唯一の高校の吹奏楽部、その吹奏楽部は県の東部として一番頑張っているという学校ですので、そこの沼津の吹奏楽部とともに、この駿東の4校の中学校をもっとレベルアップして東部の音楽活動を盛んにしていきたいと思っております。

静岡県というのは知事さんも御存じのように、東・中・西部という広い長いところでありまして、現実の話、吹奏楽部も西高東低でありまして、浜松という大変高い壁が有しております。岐阜とか東海4県に行く前に、まず浜松の牙城を崩さないとそこから這い上がってこれないので、まずは第一は浜松を倒すと。

倒すといっても、別に駄目にするわけではなくて、越えたいということですので、浜松を越えることを目指してやっております。できないということはないと自分の中では思っ

ていますので、やればできる。やらまいか、これは浜松ですけれども、清水町にもやらまいかの精神はあると思いますので、やればできると思いますので、実際それに向けて活動しておりますし、清水町の皆様、町長さんを初めとして、いろんな各部署の方が協力してくれて盛り立ててくれているようになっております。

もちろん長泉町長さんにも一つ言いたいのは、長泉北中の楽器を買っていただいて、生徒たちがたくさん喜んでおりますので、生徒たちからお礼を伝えておいてくれと言われております。

清水町ももちろん、今年ちゃんと予算立てていただきまして、楽器を買っていただけるということですので、本当に感謝しております。ありがとうございます。

あとは結果を出すのはこちら側の方ですけれども、とにかく駿東を中心として、ここでみんな生徒のレベルを引き上げて、今度はその中学校で引き上げたレベルの方々が、各高校に行くということを念頭にしておりますので、中学校のレベルが上がれば、高校のレベルは必然的に上がるはずです。

やっぱりそういうふうに1年1年かけて育てていった子供たちが各高校で頑張っていただけあればありがたいと思いますけれども、現実の話、今度は現実の話です。県立高校の方は、今現在吹奏楽部としてはたくさんあります。でもその中で東部の中で頑張っているところとそうでないところの格差が非常にあるということです。沼津商業高校は東部で1位、頑張っております。でもそうでないところもあります。なぜそういうことかという、今年、沼津商業高校も部員が70人を越える大団体となって楽器が足りないんですよ。楽器が足りないんです。

県の予算がもうかなり厳しいということは、自分も高校に出入りしていますので、よく分かります。そこでもう1つ提案がありまして、1つは買ってほしい。でもできなければ、その部員が少ないところの高校の楽器があいているなら貸してほしい。そういうふうなシステムを考えていただけないかということをお願いしたくて、この場で発表させていただきましても、実際私が仕事として高校等に携わっているので、どこにどれだけの人数が入っているかというのはある程度把握して、今人数が少ないということも分かっております。

でもその借りるという方法も、今までは先生方にお聞きしますと、先生が知っているところの学校をお願いして、そういう仲のいい先生方で貸し借りをやっているところが多いのと、あいているということを知らないということで、あいているところはあきっぱなし、

足りないところは足りないで、どこからか借りてくると。実際自分の楽器も3、4台、どこかの高校に貸してある状態ですので、そういうふうなことがあるので、予算がなければあいている学校の楽器を借りれるようなシステムを考えてほしいなというふうに思います。というのは、やっぱり県立高校は県の予算で買っていて、県の財産でありますし、その学校の財産でありますけれども、もしあいているのなら有効活用で、あいている学校の楽器をお借りしたい、そうなったらいいな、そうしてくれたら本当にいいんだけどと思います。

一応そういうふうなことなんですけれども、実際、今年目標としては、同じように駿東地区中学校東部大会金賞を取って県大会に進むこと。もう1つは、やっぱり自分の中でもできるとき、できる場所、できるタイミングというのがあるので、今現在一番可能なところであれば、長泉町長さん、喜んでください。長泉中学が今一番可能性が高くて、大編成の中で全国大会に進めるバンドをつくろうということで昨年からやっております。活動しておりますので、是非、長泉町にも協力していただいて、バックアップをしていただけたらありがたいと思います。

もう1つ、本当に余分な話なんですけれども、今年の4月1日に清水町の交流センターで吹奏楽コンクールの勉強会を中学校、高校、東部の学校を集めて勉強会を2年連続やらせていただきましたが、来年の3月は長泉町のペルフォールで勉強会をさせていただいて、うんと大々的に広めていきたいと思いますので、是非、御協力の方をよろしく願いいたします。以上です。

#### 【発言者6】

こんにちは。長泉で小児科をやっております発言者6と申します。今回はこのような場を設けていただいて、川勝知事初め、皆さんのお力に感謝します。今までここで私がやってきたことをある程度認められてここに呼ばれたんだろうなということで、ちょっと自分のやってきたことを少し自慢をしながら、皆さんにお話をしたいと思います。

小児科医というのは、今絶滅危惧種みたいで、子供は少子化で役もないし、小児科医になって、本当に選択していくときにはというような感じだったんですけど、やっぱりこれから生きていくという子供たちを見ていくことで、私はものすごくパワーをもらいながらここまで仕事を続けてくることができ、絶滅危惧種万歳みたいな感じで毎日やっております。

小児科の特性として、患者さんは言わないです、何も。だから一緒に連れてくる親御さんを通して、患者さんの訴えを見抜いていくわけなんですけれども、やっぱりそれでもものを言わない子たちにも言いたいことがあるわけで、その心に強く寄り添いながらというそういうちょっと変わった仕事をしています。ですから、患者さんを診るんですけれども、それを支えている親御さん、その周りの環境みたいなものも考えながら病気を診ていくということとで毎日生活をしております。

大きく分けて、体の病気という面で子供を支えていくということと、あと心という面で子供を支えていくという大きなことがあります。まず健康という面で支えるならば、やっぱり生活が大変で、子供たちにお金がかかる、子育てをしている中で、親御さんが病院にかかるということはものすごく大変なことなんです。

おかげさまで、この地域では乳幼児の医療費が中学校まで無料で受けさせていただくことがあるので、本当に感謝しております。それでお母さんたちは病院に遠慮することなく、ちょっとした悩みがあったところで外来に来ていただける。大きな病気になる前にもものを見つけてあげるということがすごくできるようになったと思って、深く感謝しております。

ただ一方では、コンビニ受診みたいなものもあるので、「ちょっとおできが」と言われて、「どこ？」と言ったら、お腹にぼちっとあって、これでこの時間に来るかいみたいなものが、簡単に来れてしまうということもあつたりとかして、それは救急でも同じような状況があるので、一緒に受診の、何というんでしょうか、どういうふうにしてかかっていったらいいのかということも教育していくということも、実際に乳児医療が無料化したときには必要なんだなということは感じながら仕事をしています。その辺はリーフレットができたり、#8000番ができたりということで、かなり冷静な受診にはなっていると思います。

ただ、病気というのは、なりたくてなるものではなくて、ある日突然突撃してくるわけで、それはもう神様は全然平等にやってくるわけですね。そのときに命をつなげるために、少しでも予防することができればということで始まっているので、子供の病気で一番メインになってくるのは感染症で、その感染症で命を落とすというそういう悲劇を繰り返さないために、予防できるものは予防接種というものをして未然に防ごうということを昔からやっています。

ただ、日本は皆保険なので、病気になっても、何割負担ではあるんですけれども、かかれるわけですよ。そうすると予防するよりも、なったらかかればいいじゃんみたいな、水疱瘡になれば、薬もらえばいいじゃんということになっちゃっているんですね。ただ本当

はそれに実際かかることで命を落とす人もいるし、合併症、後遺症をもらう人もあるので、そういうような病気になってはいけないということで、V P D といって Vaccine Preventable Diseases、V P D の会というのものもあるんですけども、ワクチンで予防できるものはかからないような文明的な社会にしなくてはならないということが、ここ 10 年ちよつとないんですけども、すごく盛り上がりました。

おかげで、国の方が公費負担として予防接種を充実させてくれるようになりました。本当に欧米から見るとガラパゴスみたいな中で長寿命を維持する日本で、本当不思議な国だったんですけども、今初めて乳幼児のときからそこで命を失っている子たちを救おうという機運が高まり、ここ数年でワクチンがものすごく定期接種化されました。

おかげさまで数年前に水疱瘡も定期接種化され、今度は B 型肝炎が 10 月から 1 歳未満の子たちにつき 3 回無料という国の英断がございました。ただ 1 歳以下なんですね。免疫性が弱い子たちが B 型肝炎に罹患すると、ウイルスが残ってしまうんですね。C 型肝炎は治療できる時代になりましたけれども、B 型肝炎ウイルスが残ってしまった場合は、もし年をとって免疫が落ちたときにはウイルスがバンと爆発して肝炎、肝硬変、肝がんになって亡くなってしまうという、もういかんともしがたいということがわかっている、だから国は 1 歳以下の子たちを予防接種しよう。ただ一番守られなければいけないのは 3 歳以下なんですね。

ですから先日も 2 市 2 町の町長さん、市長さん相手に要望書を医師会から出したんですけども、できれば 3 歳以下のお友達も全額とは言いません、全額とは言わないんですけども、一部負担をしていただければ、予防接種率が上がり、そういう B 型肝炎で将来肝がんて泣いてしまうようなつらい思いをする人たちが未然に防げるのではないかというふうに思います。

お母さんたちは予防接種での弊害をすごく怖がって打たないのかなと思ったんですけど、外来で聞いたりとか、ミキハウスなんかの統計を聞きますと、タダだったら打つと言うんですね。ワクチンが怖いわけではなくて、打ちたい、ただお金がかかるから打てないというそういう現状があるということをやはりお話を聞いていただき、それでやはり地域格差があるわけですよ。現在も B 型肝炎は浜松とそれから富士市と幾つかの市町村で無料化になって、富士宮かな、なっています。

先日も浜松からこちらに転居された方が、2 カ月からのワクチンスタートで B 肝が入っているんですね。私は謝ったんですね。もし浜松にそのままいればお金がかからなかった

かもしれないけど、親御さんの気合いでお金を出して、この子を守ってくれてありがとうという言い方をしました。ですから本当にちょっとでも、ちょっとでも補助を入れていただけるとありがたいかなと思うので、ちょうどB型肝炎が公費になりますので、少しお願いを言わせていただいた次第です。それが一つ。

もう一つは、多分これが一番私をここに座らせてもらったものだと思うんですけども、15年前に私こちらにぽんと落下傘みたいにして戻ってまいりまして、子どもたちのことをやっています。以前勤めたところでは発達障害のお友達のことをずっとやっけていまして、その支援だとか、判断だとか、お薬だとか、療育だとかということをやってきた人間がぼんとここに来たときに、もう何かね、何もありませんよね。

じゃのんびりしているからもめてないのかなと思ったら、とんでもなくて、学校が、今よりはまだ少なかったと思うんですけども、すごく学校も困難さを持っていたし、幼稚園だとか保育園は大変なんだけど、何が大変なのかわからないままに、こういった、ただはっきりとわかってきたときに、この子は発達障害かどうか診断する医療機関が東部にはないから病院をつくれというような感じで、わあわあわあわあやっているようなところに、私はぽこんと帰ってきた。ここで生まれ育っているのだから帰ってきたという言い方をしますけれども、帰ってきた次第です。

そういう関係者の方たちといっぱい話をする機会がありました。小児科で、鼻水、せき、風邪を診ているのではなくて、心の方を診ていくということがだんだん、だんだん、何というんでしょうか、私の主な仕事みたいになってきました。やっぱり先ほど言われていたんですけども、東部と中部と西部の地域格差がありまして、西高東低なんですね。浜松医大があり、中部、真ん中はこども病院があったりとか、県の機関があったりとかして、東部は自力でやれみたいな、なんかそんな感じ。その中で幾つかの施設が踏ん張って、地域の子たちを診ていました。

病院を建てなきゃだめなのかな、外来増やさなきゃだめなのかなと思ったんですけど、やっぱり違うんですね。最初に子供たちはおぎゃーと生まれてから、その何が大切なのか、何が違うのか、何をやっていったらいいかと気づけるのはお母さんだし、保健師さんだし、保育園の先生だし、幼稚園の先生だし、小学校の先生なんですね。じゃその人たちに勉強してもらって、自信を持って自分で関わること関われば、うんと変わるんじゃないかなというふうに考えて、場をくださったんですよ、町が。

いろいろ講演をさせていただく機会があつて、保健センターの意識が変わり、幼稚園の

先生の意識が変わり、保育園の先生の意識が変わりということで、ここまで来ました。就学委員会の委員にもさせていただいて、最初はもうシツチャカメツチャカで感じて幼稚園から小学校普通級で行きたいという子たちがいっぱい、幼稚園の先生たちの訴えは、「ちょっと変わっているけど大丈夫だから普通級に入れてください」というそういうアプローチだったんですね。

でも本当は、子供たちはゆっくりというか、その子に合った場所で、その子の特性を認めるところで伸ばしてあげることが大事なので、すべてが普通級に行くことが大事なことではなくて、どこに行き場所があるんだらうということを見ていくことが大事だということをお話しながら、3年4年変わりました。

そうしたら何と長泉の就学委員会も、そうやって見立てをした子供たちが就学委員会に上がってくるようになってきて、そこまでの間に教育委員会の先生方の御苦勞はものすごかったと思うんですけども、親御さんたちが、この子を伸ばすためにはどういう場所がいいだらうということを受け入れられるようになってきた。それはやっぱり町が一生懸命教育委員会だとか、子育て支援だとか、先生たちを協力して話して、現場のところによってくれたことだと思います。

私は何をしようかなと思ったら、結局はつなげる仕事をするんですね。こういう保健センターで気がかりな子を幼稚園にどういう配慮でやるか。それを小学校にどうやるかというそこをつなげていく仕事は私の仕事かなというふうに思いまして、それで現在ぼちぼちとやっています。

だけど、やっぱり支援をしていかなきゃいけないので、児童発達支援センターというのが国の国策できています。東部にも児童発達支援センターというのがあります。大体人口10万人に1人ずつぐらいはあるので、沼津さんにも1つあり、三島さんはそれに近いものを建てて、伊豆の国さんにもできて、裾野さんにもあります。大体この長泉と清水町は裾野と一緒に児童発達支援センターというのをつくられています。

そこで、落ち着きがないとか、なかなか聞き分けがないとか、自分の訴えが多いとか、言葉が遅いとか、そういう子たちを落ち着いた環境に取り出して育てて療育していくということをやっています。

ただ、そうやってつなぐことを一生懸命したばかりに、もうやればやるほど、ぼこぼこ、ぼこぼこ出てくるわけですね。そうすると、裾野さんでやればいいやって、清水町、長泉町いたんですけど、正直、もうオーバーフローしちゃった。やっぱり裾野にあるので、

裾野の方たちが、最初立ち上げたときには、そんなところに子どもを預けるかなんていう感じだったので、長泉町だとか清水町の子たちがわっさわっさ行って、あついたいたという感じだったけど、今はもう裾野で大変な子がいっぱいいますから、長泉ちょっと待ってとか、清水町ちょっと待ってみたいな感じになって、となると10万人に1人のそういうセンターは無理だったとしても、各町にずっと育ちを見ていくような部署がやっぱり町の中にしっかりとあった方がいい。

言えるのは、1つ1つの部署にいる人たちはものすごく知識を持って、そんなこと言わなくてもわかっているよぐらいの知識を持っている人がいっぱいいるんですね。ただ、つながっていかないから親御さんはものすごく不安。でも、例えば町にこここのところに行くところとワンストップでいろんなところがつながるよというものが、もしあるのであれば、お母さんたちは不安にならないので、せつかく子育てしやすい町で、出生率もとてもよくて、気持ちよく子育てをしているお母さんたちが、すべてがすべて、子供たちが順風満帆に行くわけではないわけで、よさそうに思っているけど、もしかしたら悩みがあるかも。その人たちがどこに行ったらいいのかしらと悩むのではなくて、そこに行ったら、もう聞き分けてくれるような、清水町だと保健センターにコンシェルジュみたいなものを置かれたんですけど、それに近いものをもう少し長くやっていくようなものがシステムとしてできればいいかなと思います。

東部は何もないということをお願い続けたおかげで、県の発達障害者支援センターのあいらの部署が東部の総合庁舎の中に何年前に来ていただきました。であれば、無理やり何か箱を頑張ってお金かけてつくるというよりは、せつかく能力のある人たちが自信を持ってつなげていくような机と椅子、パーテーションみたいなものがあれば、多分きつものすごく勉強していらっしゃいます、皆さん。だからそれをつなげるような場所をやっぱり行政の中にあると、ものすごく親御さんたちが、ますますこつて住みやすいなあというふうに思うのではないかなというふうに思います。

これぐらいで私の要望とさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【川勝知事】

どうもありがとうございました。今日は最初に美しい水の話、おいしい果物の四ツ溝柿、それから綺麗なお花の話、スポーツときまして、そして音楽ということで、発言者5さんから音楽、特に吹奏楽にかける情熱がもう体から発散しているというのが分かりまして、

実はコーディネーターというのは、学校と地域を結ぶ立派な方々になっていただいているわけですね。

学校側も大変現場が忙しいので、地域とともに、あるいは地域の子供は地域で育てようというそういう考えのもとに、こういうコーディネーターというのが最近設置されてきて、発言者5さんは吹奏楽で学校の子供たちに音楽教育をされているということで、しかも長泉中学校では東海大会に出られたんですね、東海でトップですか。東海に出たんですね。そして清水町立南中学校、東部で金賞を取ったと、なるほど。ですから実績のある方なんですね。

私はこれからの教育はこういうコーディネーターというふうに言っておりますけれども、こういう人がたくさんいらっしゃるというと、ちょっと一般的過ぎますけれども、人材がたくさんあります。さっき発言者3さんが『ママラッチ』と言われたでしょう。『ママラッチ』って御存じの方いらっしゃいますか。これは長泉のママさんが行政と組んでやっている、いわばまちのキーワードをママさんたちが記事を集めて発信している、日本各地で注目されているわけですね。

この方たちも自分たちで立ち上げたんですね。行政が探したんじゃないけれども、それぞれ、例えば県庁で働いたことがある方とか、それぞれ皆経歴を持って、そしてお母さんになられて、突然自分たちの今までの仕事とは全く違う子育ての世界に入って、不安になってどうするかというところから、似たような人たちが集まられて、そしてママ友というのがあります、あるいは和みカフェというのもあります、そういう女性は皆子どもが小さいですけども、しかし実に能力がありますよ。

こうした能力がある人が、実は370万県内にたくさんいらして、そして子どもたちの発達といいますか、子どもたちの教育に役立つことのできる人たちがたくさんいるんですよ。ですから地域ぐるみ、社会総がかりでやっぺいこう。先生は先生で御自身の本来の業務であるお仕事を教室でされて、しかし子どもの教育についてはみんなでやろうじゃないかということで、そして発言者5さんの場合には吹奏楽だということで、ちゃんと実績持っていらっしゃるんで、しかも沼津商業高校ですか、ここはもうトップクラスだと。ものすごい部員がいて楽器が足りないというところまできているということで、いかにこれが本気かということが、この子たちのために何としてでも楽器を持たせてやらないと、練習もできませんからね、痛いほどそれが分かります。

だから楽器の在庫調べというとおかしいですけども、どういう使われていないもので、

活用できるものがあるか。差し当たっては吹奏楽部が立ち上がらなくて、楽器が倉庫にしまい込まれているやつをそれを使う方がいいというのは当然のことなので、こうしたことを今日初めて聞きました。楽器の貸し借り、いわゆる名バイオリニストなんかはストラディバリウスだとかガルネリだとか、これはもう世界中のバイオリニストたちが、それを借りて演奏旅行しているんですよ。

そういうことを思えば、なるほど楽器というのは貸し借りするもので、できるということで、そういう発想自体を僕も初めて聞きましたので、恐らく多くの方は知らなかったんじゃないかと思います。ですから、そういう貸し借りができるかどうかということで、学校の音楽の先生などを通して、差し当たってすぐに吹奏楽部が立ち上げられないならば、そここのところにしばらく貸してくださいというようなことができますよね。

また、楽器をつくるのが静岡県は得意中の得意の県なので、すごくいい楽器があるわけですね。実際モンゴルというところから楽器をくれと言われましたよ。モンゴル国立交響楽団ですよ。戦後に日本人が残っていた楽器をずっと使ってオーケストラで、古くなったのでというので差し上げたこともあります。大統領夫人、全国放送でそれ流れましたよ、感謝されて。ですから、いかに音楽が国民の心に大きな影響を与えるかということで、ですから吹奏楽を通して子どもたちの感性、情操を豊かにするというのは、発言者5さんみたいな人がいないとなかなかできないですね。

そういう意味で、貸し借りの話は「へえ」ということのでございましたので、どういう状況になっているのか、学校を調べさせてください。そして吹奏楽は、北は北海道から南は沖縄まで、日本中どこでもやっていますので、吹奏楽は実は世界トップです、日本は。そういう実は我々にとっては何となく当たり前みたいにありますけれども、実はそうではありません。学校でやっているのは日本だけです。そういう意味でこれは非常に重要だというふうに受けとめた次第です。すぐにどうということはありませんけれども、その貸し借りということができるといことで、そこら辺から調べてみましょう。

それからまた個人でも寄付したいという人がいるならば、ちゃんとそれを南中学校感謝状とかね、あるいは町長さんの長泉町長感謝状とか出されて、感謝状なんていうのは幾ら出してもいいでしょう。清水町長さんも出されて、個人からも御寄付を賜るといことで、教育のための皆ができることをしていくというところにまで発展できればいいんじゃないかと思います。

さて、発言者6は、実は今日通常打ち合わせのために、この広聴会というのはお昼を御

一緒にいたしまして、それからここへ臨むという、これは今まで四十数回やってきましたけれども、1度も例外はありません。ところが、今日、発言者6さんは、この昼食会にお越しになれなかったんです。なぜか。午前中いっぱいまで子どもたちの診療をされていたからなんですよ。お昼食べられたのかと。ちょっとやせていらっしゃるので、食も削って子どもたちのために診療されているんじゃないかと。絶滅危惧種なんてとんでもない。こういう人たちをもっと増やさないといけないというふうに思うわけです。

15年前に戻ってこられて、何もないというその危機意識の中から、それを絶望にしないで、だったらこうしたらいいということでやってこられて、特に予防接種につきまして、これは本来子どもは国の財産ですから、どこかの町がやって、どこかの町がやらないというのは、本当はおかしいですね。ですから、これは全国一斉にやらなくちゃいけないということで、発言者6さんがたまたま長泉にいるから、頭下げなくちゃいけないというのは全く理不尽なことで、こうしたことは厚生労働省というか、我々はそのために税金を納めているんじゃないかとすら思いますので、これはもう一斉にやらなくちゃいけないということですが、B型肝炎の深刻性が言われましたので、できるところからやっていくという以外にないのではないかなというふうに思いまして、それ以外にもおたふくなんかでもまた公認されたんじゃないですか。

幾つかありますよね。日本脳炎だとか、我々は子どものときに、それにならないために予防接種したりしますけれども、そういうものと、まだなされてないものもありますし、なるべく子どもが将来にわたって大きな大病で家族に悲しみをもたらさないように、それは一緒にやっていかないといかんというふうに思いましたが、公費負担みたいなもので、具体的に現場から出てきたものはできる限りこたえていくということでもよろしいんじゃないでしょうか、町長さん。そういうことのようにです。ですからもっと声を大きくしてやってください。

私の方も御一緒に分担できるならやっていっていいんじゃないかと。小児科の先生方、確かに小児病院だとか産婦人科だとか、そういうところが少なくなっていて、その声を、とりあえず増やしてくれという声はよく聞きますが、そうでなくてここが必要だというような具体的なピンポイントで言うてくださると、何をすべきかが分かるので、そういう悲鳴みたいなそういう声は極めて貴重だということで、今日は具体的な感染症についても言うていただきましたので、順番にやっていければと思いました。

それから発達障害は、どういうわけか増えているんですね。ですから、じゃどうしたら

いいか。差し当たってワンストップの相談するところをお困りのお母様方に提供できるようなそういうシステムはそう難しくないんじゃないかという印象を持ちました。どうしてもできないのかなと思うぐらいです。

それで、ただ児童発達障害センターみたいなものは十分に東部、あるいは伊豆半島はございまして、これは増やしていかなくちゃいかんということですが、地方レベルで1つずつというよりも、差し当たってワンストップでどこに行ったら何ができるかということから、それぐらいから始めるのは当然ですね。まずは情報を手に入れるということですね。簡単に手に入れることができるということが大事じゃないかと。

それから今、私は本当に聞いていて大変感心したのは、その保育園の先生、幼稚園の先生、小学校・中学校の先生方に発達障害にかかわる能力を見立てといえますか、能力をちゃんと先生に教えていただくということを、これは長泉でされてきたわけですか。大したものですね。こういうのをやっぱり比較的小さい町だからできるのかもしれませんが、こうしたことが子どもにとってもいいし、親御さんにとってもいいし、先生方にとっても、自分の教え方が悪いんじゃないかとか、いろんなことを悩まなくて済みますので、子どもに応じたそうした教育をしていくためにも、なるべく早い段階からそういうことが分かる能力が必要で、そういうときに発言者6さんのような先生にそれぞれに来ていただいて、それがまた第3、第4の発言者6さんのような人たちが増えていくことがすごく大事だということで、私どもお医者様の数が人口当たり少ないですね、静岡県は。

それで、医師会は反対していますけれども、医学部をつくるということを言ったのは文科省なんです。それでだけお医者様が少ない、小児科が少ないとか産婦人科が少ないとか、分かっているわけですから、だったらつくる以外にないというので、つくっているの知っています？バーチャルメディカルカレッジというもの。

バーチャルというのは現実でないということですよ。それで、ここに医科大学をつくるというのじゃなくて、全国に医学部とか医科大学があるでしょう。そこで勉強している青年たちがいるわけです。そこに奨学金を充てるわけです、6年間。そして6年の1.5倍、つまり9年間は静岡県でいろいろ研修を積んでくださいと。お医者様の卵になってくださいということで、平成21年から100人単位でやっています。

だから平成21年から今平成28年ですから、6年たつて卒業した人がいるわけです。その人たちが静岡県で働き始めているんですよ。18で仮に大学に入って、6年たつと24、5になって、そこから34くらいまでこちらで働くことになっているんです。静岡県立大学の

理事長に引きつけられて、東大だ、京大だ、何とか大学だの人たちが全部日本中で教育されているわけです。そして終わってからこちらに来て仕事してもらわなければならないわけですよ。あるいは医科大学、敷地を準備する、建物を建てる、機械を買う、そして先生を雇う、それはもう1,000億ぐらいかかるという感じで、10年たたないとお医者様は出てこない。それが全部周りにやってもらっていて、ソフトパワーなんです。

ただ、どの科にというところまで今はいいません。小児科だとか、産婦人科が少ない、あるいは地域においては東部であるとか伊豆半島がお医者さんが少ないところになるべく行くように、今そういう算段を練って、発言者6さんの御負担を軽減したい、こういうふうにひそかにやっていることをはっきり申し上げました。

そんなことで、子どもたちが病気にならない、我々もまたいずれ病気にかかったりしますので、そのときに困らなくて済むようにやっておりますけれども、何といたっても小児科の先生の話は拳々服膺してしっかりとこれを実践していきたいというふうに思っております。それだけはお約束いたします。ありがとうございました。

#### 【質問者1】

恐れ入ります。柿田川の橋の幅を広げていただきたいと思っております。清水町の柿田川の橋ですね。

次は、ブロック塀がいかに危ないかということは分かっておりまして、地震が次々とありますので、あれを何とかできないでしょうか。

もう1つは、ガスボンベをきちっと業者が安心なように設置されているかどうか、これを心配しております。これが一番私が今心配していることでございます。

それからもう1つ、お医者様がいらっしゃいますので申し上げたいと思っておりますけれども、先日即席のラーメンを私は滅多に食べないのに食べたんですね。それが恐ろしいほどまずいんです。私あんなまずいものは食べたことがない。初めてです。あんなに恐ろしい食べ物を今後若い方がずっとお子さんから食べていったら、必ず病気になると思いました。だから本当に食べ物のことを今心配しております。これだけ心配がありまして申し上げました。

【川勝知事】

どうもありがとうございました。橋の件は、どのぐらい幅を望まれているんですか。何か町長さんに直接言われているようですね。

【質問者1】

私が思いますのは、両脇の1メートル余りのところを、体をカニのようにして歩きながら帰ってくるという状況なんです。私がそれを見まして大変危ないと思っております。たまたま橋の上に上っていた子がおりまして、橋の欄干の上で。私はもう本当に飛びついて怒りました。

【川勝知事】

分かりました。しっかり怒ってください。分かりました、狭いですね。

それからブロック塀は、おっしゃるとおりです。各地の地震でブロック塀によって事故も起こっていますし、さらに怪我也されている人もいらっしゃるということなので、ちゃんとブロック塀の作り方があってと思いますけれども、ただただ積み上げてあるだけだと非常に危ない。これはチェックしなくちゃいけませんね。

それからブロック塀の業者の方がいらっしゃる申しわけありませんけれども、違う形での塀の作り方ですね。

何といいますか、垣根にすると倒れることはないでしょう。ですから塀の作り方を考える時期にきているんじゃないかと。私どもは長い間垣根でしたね、日本というのは。それがあるときにブロックになって、すごくハイカラに見えたことがありました。しかし、今はそれが危ないじゃないかというふうに見えるようになりました。ですからこのブロック塀というのは、まず安全チェックをするということと同時に、これから何かお建てになるときに、きちっと芯を入れて倒れないようにするという、これはする必要があると思いますね。各人がチェックするということがとても大事だと。

ガスボンベはプロパンガスのことをおっしゃっているんですか、家のガスボンベですか。清水町はプロパンガスを使っておられるんですか。それはもう業者がそういうことはきちんとして設置するようにしているはずですが、もし危ないというふうな感じのところがあつたら、駄目よこれということで会社の名前を教えてください。そうするとそこに言いに行きますから。そういうふうにして1つ1つ危ないところを、あるいは危ないことをしているところにやっついていかないと、一般論でやってもしょうがないので。

県が仕事をしているんじゃなくて、人が仕事をしているんですね。ですから誰がやっているんですか、どこがなさっているんですかということは、顔の見える関係にしておいた方が、気がつかない場合もありますから、相手が。悪いことしているつもりなくて、それで気がつけば直しますので、何人も人様の家に危害を加えるためにプロパンガスを置いているわけじゃありませんので、ですからそういう観点でこのブロック塀についても、ガスボンベにつきましても直せると思いますし、大体清水町なんて3万人ぐらいしかいないでしょう。3万2,000人、1万世帯ぐらいでしょう。だからそんなにチェックするのは難しいと思いますよ。お願いします。